

平成 29 年度 バルツァ・ゴードル事業計画

バルツァ事業会基本理念

Life is Beautiful

ともに手をつなぎ、こころ輝く人生を創造しよう

バルツァ・ゴードル基本方針

安全と健康を守り、快適な環境の中、人が人として豊かな生活が送れる暮らしの空間を創ります。

最も弱い者を、一人ももれなく守る精神を貫き、尊厳をもって生きる為の権利を守ります。

看護療育部

【看護療育部総括】

1階病棟における一般病床(看護基準10対1)の開始から3年4か月になる。看護療育部として重点課題であった看護師不足の問題は、バルツァ・ゴードルのスタッフとしての求められるスキル・能力示し「目標管理・面談」「研修体系」の実施などで徐々に緩和の兆しを見せ始めスタッフの離職率の低下することができた。実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修、をはじめ研修会への参加者は、看護師で9割強、療育スタッフにおいても6割に近いスタッフの研修会への参加ができた。それに伴う伝達講習会の開催も実施され、充実した研修体系へ確立への前進できた年であったと考えられる。

ショート利用者数も前年度に近い数字も得られ、臨床実習も10か所以上の要望にも対応し地域への貢献的にも納得のいく一年であったと評価したい。

しかし、利用者の入所の面からは0人という結果であることから、空床2名は来年度へ向けての課題の一つである。来年度も個別支援の充実からの利用者様へのより良い支援サービスの向上が、スタッフの定着率、満足感・やりがいへの認識と考え持続、継続を目指す。

上記の課題を踏まえて平成29年看護療育部目標を下記に示す。

平成29年度 看護療育目標

- 1、利用者様1人ひとりを尊重した質の高い看護・支援サービスの提供
- 2、快適で安全な看護・療養環境を整える
- 3、専門職としての自己研鑽に努め人としての成長を目指す。
- 4、スタッフ全員でコスト意識に努め施設(病院)運営に参画する。

【外来看護療育目標】

- 1、いつでも笑顔を忘れず、利用者様、家族様に優しい看護支援を提供します。
- 2、質の高い看護技術を身につけ、つねに確認を怠らずゆとりを持った安全な看護を提供する。
- 3、他部署との連携を図り、継続した看護を提供します。
- 4、地域、外部との交流を深め、地域にニーズに応える。

【1階病棟目標】

- 1、看護・介護の質の向上
 - 1) サービス支援内容の充実

- 2) 看護・介護の充実に向けた業務改善
- 3) 看護・介護記録の見直し
- 2、職場環境の充実
 - 1) 人材確保と支援に向けた教育体制の充実
 - 2) 看護師、介護者の知識・技術向上に向けた研修企画と参加率の向上
- 3、経営への参画
 - 1) 病床数確保に向けた、新規利用者の確保
 - 2) 新規短期利用者受け入れ態勢の整備
- 3) 適正な定数管理と在庫管理

【2階病棟目標】

- 1. 利用者様の個別性と尊重を前提とした生活環境の質向上を目指す
 - ①、利用者様のケアの充実を図り、看護・療育との協働で安全・安楽からの生活の潤いを提供します。
 - ②、日常生活支援が主な利用者様、支援活動・レクを通して日々の生活にメリハリを考えたサービスの提供を実施する。
 - ③、個別支援計画の充実と日々の活動の記録を確実にいきより良いサービスの提供を目指します。
- 2. 快適で安全な信頼ある看護・療養環境サービスの向上を目指す。
 - ①、ショート利用者様の利用を促進させる為に、家族様の要望対応できる質の高い療養環境を目指します。
 - ②、活動や行事を通して地域とのコミュニケーションを充実させ行動範囲の拡大を目指す。
 - ③、移動支援への協力、福祉サービスの利用の促進。
- 3. 職員のレベルアップによる質の向上。
 - ①、個人の目標を持ち、レベルにあった各研修会への積極的な参加。
 - ②、研修で学んだことの積極的な報告による全体のレベルアップを目指す。
- 4. 適切な病棟運営を図る。
 - ①、業務改善を通して、コスト意識を持ち、無駄を省く。
 - ②、働きやすく、お互いが指摘し高め合える職場環境を目指す。

薬剤課

1. 定期処方検討・・・①用法、用量の再確認。
 - ②剤数は減らせるか。
 - ③利用者一人あたりの一日本価の計算。(2階は包括医療を考慮して)
2. 薬歴を充実させる。
3. 薬剤耐性化を防ぐため、抗生物質使用状況の DaTa 作成し医師にフィードバック。
4. 在庫管理の徹底。
 - ・医師と協議し救急カート配置薬の見直し。
 - ・薬剤の期限切れを最小限にとどめ、不良在庫を置かない。
 - ・抗てんかん薬も含め、後発品導入の推進を図る。
5. 病棟業務
 - ・薬剤情報収集及び提供に努力する。
 - ・病棟申し送りの積極的な参加。
6. 感染対策における薬剤師の役割を理解し、その貢献に努力する。
それには、勉強及び講習会等の参加が必須である。
7. 他業種との連携
 - ・医師との協議により定期薬の見直し（副作用を考慮し薬剤の軽減化に向けて）。
 - ・看護師、療育より情報の収集。
 - ・NST 活動の積極的なかわり。
 - ・医事への薬剤情報の提供。
8. 作業手順を見直し、効率化、短縮化をはかる。
9. 薬局内の清潔・整理整頓、環境整備に努める。
10. 全国の重心施設薬剤師のメーリングリストより情報交換を行い、良い点は積極的に導入する。
 11. 薬局内での情報伝達を確実にする。薬剤師同士の連携を強化する
 12. 薬局はオープンカウンターである。即ち、中身の見える薬局を心がける。

訓練課

訓練課のセラピスト全員が今後も、より良い訓練と援助を提供できるよう、訓練の質とセラピストの技術を向上させるために、研修会などに積極的に参加にするなどの、自己研鑽を重ねます。また、利用者様の評価や情報の共有をセラピスト同士が随時可能となる環境作りを進めていきます。

また、充実した訓練を利用者様一人ひとりに提供できるよう、必要な物品の充実を図り訓練に活かします。新たなセラピストに入職して頂けるよう、対外的なアピールも積極的に行います。

OT

利用者様についての理解を深めるため、随時 OT 間で症例についての話し合いを実施します。それらを基に個別訓練、グループ OT、生活環境が向上するためのシーティングやポジショニングの検討を行います。個別訓練では、側彎変形・拘縮などの予防や改善に向け、全身のストレッチなどを行い、身体の柔軟性を高め呼吸機能の安定を図っていきます。これら身体へのアプローチを行うことで食事や作業をしやすい姿勢につなげ、生活の質が向上するよう努めていきます。

OT のグループ訓練では、昨年度『園芸』は年間を通じ、概ね計画通り実施することができたので、今年度も継続して取り組みます。『ものづくり』は、訓練の中で出来た作品を、いくつかの作品展に出品・応募することができました。今年度も継続して取り組みます。『スヌーズレン』は下半期から定期的実施することが出来ました。今年度も継続して定期的に取り組みます。

それぞれのグループ訓練において、記録を継続的に行い、治療効果を明確にしていきます。また、昨年より多くの利用者様が参加できるよう、機会を増やし、環境の調整を行い、計画的に進め、訓練の充実に努めます。

ST

個別訓練では、自己身体への認識を高め、それぞれの発達・成長を促せる訓練内容を立案し、利用者様のコミュニケーション能力の維持、向上を目標とした関わりを継続していきます。

摂食訓練では、日常生活において重要な役割を担う食事の時間を安全かつ楽しい時間となるように、食事形態の検討や姿勢、介助方法の検討・統一のため、病棟職員との連携を図り、環境設定に努めます。

昨年度から開始となった、ゼリー食にはこの一年で確立されつつあります。

進めていく中で見られた検討課題を解消し、今年度はさらなる安全で安定した食事の提供に繋がるよう、他部署と連携を図り、引き続き検討を重ねます。

グループ訓練 (OT・ST)

OT・ST が協力して行っている茶話会、喫茶店を継続します。その実施過程で出てきた課題を解消し、より良い訓練となるよう、評価や情報の共有、問題解決に向けた振り返りやミーティングを積極的に行います。利用者様各々に合わせた自助具の作成や作業空間の調整などの環境設定に積極的に取り組みます。

他職種との連携

上記支援以外にも業務等を円滑かつ効果的に実施し、利用者様の生活をよりよくしていくためにも PT・OT・ST・病棟スタッフと随時コミュニケーションを取り、密に情報の発信と共有・連携を図ります。

栄養課とは昨年度に引き続き、『畑プロジェクト』を通して、園芸で獲れた作物の加工、茶話会や喫茶店での連携をしていきます。

また、学童の利用者様には引き続き授業場面の見学や参加、学校の先生との話し合いなどを行います。

栄養課

<給食管理>

○ゼリー食の提供継続と課題の整理

H28.3よりゼリー食の本格稼働となった。当初、ミキサー食を全面切り替えする計画でいたが、利用者の体調面の問題があり全面切り替えに至っていない。また、本格稼働後も様々な課題が上がってきている。

H29年度は、ゼリー食の安定した提供を継続していくとともに、稼働後の課題を整理し、対応策を検討する。

○安心・安全な食事の提供

厨房内の清掃業務等を明確化し、全従業員が内容を周知し、清潔を保つ。

<栄養管理>

○栄養（再）評価およびNST運営の継続

H29年度の栄養（再）評価については、昨年度は年2回を目標としていたが、年3回を目標に再評価を行う。

NST運営…月2回のNST検討会の資料および議事録の作成、月1回のNST委員会の議事録の作成を継続して行う。

○実習生の受け入れ再開

H28年度は、受け入れを中止していた、管理栄養士養成校からの実習生の受け入れを再開する。

○栄養情報の発信

利用者家族や地域、多職種に向けての情報発信として、園内での食品展示会の開催を考えたい。

地域支援

【短期入所】

新しく短期入所を利用された方は現時点（平成29年2月）において、昨年と比べて5名増えている。これからショート診察を希望されている方は4名おられ、春休みにかけて利用される方がさらに増えるかと思われる。2・3月に関しては現時点における予約分しかカウントできないため正確な数ではないが、利用者延べ日数に関しては昨年が588日、今年が598日と少し増加がみられたものの、利用者実数に関しては昨年の118人から今年は122人とほとんど増減はなく、新しく利用された方は定期的に継続利用されるタイプと、万が一に備えて他のところでも利用できるようにしておくタイプに分かれる傾向がある。毎年悩まされるインフルエンザ等の流行も今のところ防げており、大きなマイナスはなかった。

パンフレットの配布、レスパイト体制整備事業の主催によって、短期入所、入所のどちらにおいても人工呼吸器を使用している方の問い合わせが増えており、東大寺福祉療育病院の影響を受けて、人工呼吸器の短期入所を受けざるを得ない状況が発生している。今後の行方を占ううえで大切な決断を迫られている。

【相談支援】

計画相談に関しては、バルツァ・ゴードル入所の60名に加えて、新たに在宅および地域で生活される方のサービス等利用計画の作成を依頼されることとなった。待ったなしで始まった感はあるが、あらためて地域との結びつき、福祉サービスあるいは医療関係も含めた各種事業所の繋がり大切さを今さらながらに痛感している。今後は奈良市内の相談支援事業所とも連携を取りながら、施設における計画相談、在宅における計画相談において複眼的な思考を身につけることが急務となる。地域で生活されている方の支援を行う中で、施設内のサービスで完結されがちな利用者さんの計画の質も高めていきたい。

平成29年度 地域支援 目標

- ・入所調整会議の定期および適宜開催
- ・人工呼吸器使用者の短期入所の段階的な受け入れ
- ・障害児・者相談支援全国連絡協議会研修および自立支援協議会（相談支援部会）の参加
- ・サービス等利用計画の質の向上
- ・レスパイト体制整備事業のシリーズ化